

季節のことば



冬



大寒 <small>たいかん</small>	小寒 <small>しょうかん</small>	冬至 <small>とうじ</small>	大雪 <small>たいせつ</small>	小雪 <small>しょうせつ</small>	立冬 <small>りっとう</small>
・	・	・	・	・	・
一月二十日頃	一月五日頃	十二月二十二日頃	十二月七日頃	十一月二十二日頃	十一月七日頃
一年で最も寒さがきびしい	寒の入りともいわれる	一年の中で昼が最も短い	寒気も増し寒さが激しくなる	寒さが深まりはじめる	こよみのうえで冬が始まる



秋



霜降 <small>そうこう</small>	寒露 <small>かんろ</small>	秋分 <small>しゅうぶん</small>	白露 <small>はくろ</small>	処暑 <small>しよしょ</small>	立秋 <small>りっしゅう</small>
・	・	・	・	・	・
十月二十三日頃	十月八日頃	九月二十三日頃	九月八日頃	八月二十三日頃	八月八日頃
冬の訪れをかんじる	紅葉、落葉が見られる	昼と夜の長さがほぼ等しい	だんだん秋らしくなる	すずしくなり始める	こよみのうえで秋が始まる



夏



大暑 <small>たいしょ</small>	小暑 <small>しょうしょ</small>	夏至 <small>げし</small>	芒種 <small>ぼうしゅ</small>	小満 <small>しょうまん</small>	立夏 <small>りっか</small>
・	・	・	・	・	・
七月二十三日頃	七月七日頃	六月二十一日頃	六月六日頃	五月二十一日頃	五月六日頃
一年で最も暑さがきびしい	梅雨のおわりが近づき暑さが増す	一年の中で昼が最も長い	芒のある穀物の種をまく時期	立夏から十五日目	こよみのうえで夏が始まる



春



穀雨 <small>こくう</small>	清明 <small>せいめい</small>	春分 <small>しゅんぶん</small>	啓蟄 <small>けいちつ</small>	雨水 <small>うすい</small>	立春 <small>りっしゅん</small>
・	・	・	・	・	・
四月二十日頃	四月五日頃	三月二十一日頃	三月六日頃	二月十九日頃	二月四日頃
これを過ぎると夏が近づいてくる	だんだん温暖になり清々しい	昼と夜の長さがほぼ等しい	春もまもなく本番	雪が雨に変わり早春の気配	こよみのうえで春が始まる